

第5巻第10号
通巻第58号

藝術の秋

ロンドンの・・・

お天気

ご存知の通り、イギリスの天気は料理と並んで評判が悪い。特にロンドンと限定すれば、いつも曇りがちでどんよりとした天気、又は古風な人ならば霧がかかっていて何も見えない状態を想像するのだろうか。冬ともなれば四時過ぎにはもう暗くなり、わずいぶん一日が終わるのが早

いものだ」と思ったりする。こちらに滞在する人達からチラホラと聞かれる意見として多いのは、冬は気が重くなる」と言うもの。しかもこれを言う人は結構多い。あまり物事を深く考えない所為なのか、単に鈍感なのか、幸いな事に僕はイギリスの天気とは相性がいいように、曇りがちな空も、冬の暗さもそんなに気にならない。逆にまとまった雨が日本よりも少ないのが嬉しかったりする。五分や十分降ってすぐに止む雨が多いので、極端に言えば自分が外に出ている時に降っていないだけはいいのである。そんなように同じ街の同じ気候一つ取っても、受け取り方は人それぞれで全く違つのが面白い。天気、又は気候と言つ言葉の概念は様々



(五面に続く)

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番44号 〒166-0015からす新聞社

からすホームページ <http://www.go-karasu.com/>

投書・お問い合わせ colors@go-karasu.com

多数決で物事を決める、という考え方は、何だかとても平等なような、甘い匂いのあるもの。小学校から始まって、何かを決めるとなると、それ多数決だ、と。当番や係を選ぶとなれば、当然のように、投票という制度を使うことになっていく。もちろん、これも多数決の原理に基づく選抜方法のひとつであることは間違いない。

しかしながら、多数決が万能なんかではないことは、ちよつと考えてみれば、誰にだってわかること。コペルニクスが地動説を唱え、ガリレイが「それでも地球は動いている」と呟いたことを思い浮かべてみたまえ。何だかんだ言ったところで、人々はこの間まで、地球は象に支えられていて、端っこまでいくと、海が滝のように流れ落ちていく、と考えていたのである。今では、ガリレイが正しかったのにな、と多くの人は言うけれど、彼は宗教裁判にかけられ、自説を放棄せざるを得なかったのである。嗚呼、ガリレイ・ガリレイの哀れ的一幕。

ピタゴラスの定理や相対性理論に到達するのに、多数決など何の役に立とうか。ピートルズだつて最初はチンピラ扱いであつたのに、今では教科書に載る始末。こんな強引な例ばかりを挙げ、多数決は駄目なんだ、と言うつもりはないけれど、信用しすぎてはいけない、ということは何れにいたいたいの。

しかしながら、利便の都合上、多数決に頼らざるをえない場面が往々にしてあるのも事実。その最たるものが、国会議員に代表される政治家(あるいは政治屋)を選ぶ、という作業だ。登場人物たちの大半に会つたことなどないのだし、彼ら彼女らがどんなことを考えているのかはマスメディアを通じて得た情報によって極々断片的にしか知らないのだし、何だかんだとスピーカーを通じてがなり立てている約束事をきちんと実行してくれるかどうかなど、全くわかるはずもない。そんな人たちがいやににっこりと作り笑いを浮かべたポスターを突きつけられて、さあ誰かを選びなさいって言われても……と途方に暮れてしまつのはしかたがない。しかたがないけれども、少しでもましだと思われる誰かに投票しなければ、ますますおかしな国になってしまうに違いないから、直感や知識や情報を総動員して、どうにかこうにか投票を済ませる。帰り途にはすっきりしたようなもやもやしたような、変な気持ち。

誰もがそうだとは思わないけれど、こんな具合に選挙に臨んでいるのは私だけではないだろうなとも思う。どんな選ばれ方をしたにせよ、一旦当選してしまえば、自分は多数の国民の信頼を得たのだ、と大得意。後者暗いことが山積していたって、襖は済んだと大風張り。バツカジャナカ力。

(最終面に続く)


からす新聞は××××

が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。

誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。

今日の紙面から

- 二面 オーラ面
- 三画 芸術面
- レイズ・ギャラリ
- 四画 からすライブラリー
- CD 『キング・タイム』
- 本 『365デイズ』
- 映画 『パリ・リンドン』
- 五画 八面(国際面)
- ロンドンレポート
- 六画 社会面
- アルティマター 最後通告



四〇の足音。そろそろ聞こえてくる。今、三七歳。完全なオヤジ。

ジョンが四〇で死んだとき、それは悲しいと思ったが、それ以上の年齢の姿を見なくて済むんだ、とどっかほっとした、その四〇の近似値圏に入りつつある。

そこで、今回は若者の参考までにどこからがオヤジなのか自分の主観だらけで論じたい。

キャバクラに行く。ノ育毛剤を使う。ノ鼻毛に白髪が混じる。ノ優しい自分に気付く。ノ朝立ちがなくなっている。ノ体力を金で補おうとする。ノ肉を食うと翌朝気分が悪い。ノ年金を払わないといけないのかなと思う。ノ親の話を聞いてやる。ノ新たなミュージシャンの開拓がおっくうになる。ノNHKをやはりよく見るようになる。ノ東スポも普通に買うようになる。ノ終電で必ず帰ろうと思う。ノ犬を飼おうと思う。ノ部屋が散らかっていると我慢できない。ノクラシックをやはり聞いてみようかと思う。ノめいが中学生になる。ノ簡単に感動しなくなる。ノ簡単に恋愛しなくなる。ノギターの値段とそれを眺める時間が比例する。ノやっぱ説教臭くなる。ノ神経症でなくなる。ノそのくせフジテレビバラエティーの王監督侮辱事件を許せないと思う。ノ「絶対」と言わなくなる。ノオヤジの定義をしたがる。

これらは、例えば自分がカラーズの空間を共有してた二十代の頃にはありえなかったことだ。しかし、その反対を考えるのも楽しい。

ジョン(レノン)は自分と同じ年齢のときは自宅にこもり、資産運用というビジネスはヨーコに任せ、幼い息子ショーンのために専業主夫をやっていた。とはいえ、「ウィングス」で世界を席卷していたポールの姿を見て焦りを感じていた。

When I was younger, living confusion and deep despair.

When I was younger, living illusion of freedom and power.

When I was younger, full of ideals and broken dream, my friend.

When I was younger, everything simple but not so clear.

living on borrowed time, without a thought for tomorrow.

オヤジになる前は、ワケ分なくて、無茶苦茶に生きていた。

オヤジになる前は、自由の力という夢に生きていた。

オヤジになる前は、理想と絶望のなか生きてた、知ってるだろ？

オヤジになる前は、何もかも分かりやすかった、けど本当は見えてなかった。

生き急いでいたんだね、明日のことなんて考えもしないでさ。

これはジョンが三十九歳のときに書いたものだ。

「BORROWED TIME」(死後発売のアルバム『milk and honey』に収録/日本語訳責:ピンポンパン松本)からの抜粋。

これを読んでいる十代のみなさん! この歌詞がピンときてはいけない!

ちなみにジョンは世界の頂点を見て、すでに子供を二人設けていた。そこはわきまえて抜粋している。

松本と話そう
ピンポンパン

ヤァ! カタストロフィ・ウェイトレス

ベルアンドセバスチャン

Dear Catastrophe Waitress

Belle and Sebastian

東芝EMI TOCP-66220



映画のサントラを除けば三年ぶりであるベルアンドセバスチャンのニューアルバムがでた。

ベルセバといえは、「美しいメロディに救いようのない気持ち」を詩にしてのせる鬱ミュージックだったというのに、今回のアルバムはもはや鬱ミュージックの域を越え、空回りしてるのかと思うほど超ポップなのだ。相変わらずナイーブ少年の歌ではあるものの以前のような虚無感はなく、かわりに失恋男の狂おしくも前向きな歌がある。

彼らがこんなアルバムを作ってしまったことに嘆くファンなどいないだろう。それどころか、以前よりも確実に特別な存在となってしまうはずである。

寒い冬を乗り越えるのには、アズテックカメラしかないと思っていたが、今年はどうやらベルセバがその役目を全うしてくれそうだ。

(と)



Catch-22

Joseph Heller

Vintage, 1961, ISBN 0 09 953601 3

『キャッチ = 22』

ジョセフ・ヘラー

ハヤカワ文庫、1978年、ISBN 4150401349



戦争の不条理さをブラックユーモア満載で描いた作品。第二次大戦中、イタリア戦線。米空軍爆撃手ヨッサリアンの望みはただ一つ、生きてお国に帰ること。もちろん、仮病を使ってもできるだけ出撃は避けたい。しかし、そこには奇妙な軍紀「キャッチ=22」が存在した。

正気のやつは出撃せよ。
 気狂いは出撃しなくてよい。
 「出撃したくない」というやつは正気だから出撃せよ。

ヨッサリアンにとどまらず、目の中に八エが飛んでる操縦士、隊列行進に人生の全てを賭ける中尉、現地調達したイタリアンな愛人を肌身離さない將軍などなど、到底まともなやつは出てこない。今ごろイラクじゃ皆さん

こんな気分なんだろうかと、つい想像してしまふ。本当の気狂いは、いつたい誰なのか？準備中の自衛隊の方々にもぜひ一読をお薦めしたい作品である。

「キャッチ=22」は不条理の代名詞として流行語ともなり、いまでは辞書にも載っている。手元の『カレッジ・ライトハウス英和』によれば、

「(どう行動しても行き詰まる)不条理で理不尽な状況」
 ちなみにこの作品、一九七一年にオーソン・ウェルズなどの出演で映画化もされている。

(望月)



8 Mile

ソニー・ピクチャーズエンターテインメント/ユニバーサル・ピクチャーズ
 監督：カーティス・ハンソン
 主演：エミネム



先頃全米で公開となり大ヒットを飛ばしたエミネムこと、マーシャル・ブルース・マザーズ(通称ラビット)の自伝的映画。エミネムは白人ながら、今年のグラミー賞「最優秀ラップ・アルバム」最優秀ミュージック・ビデオ「各賞の二冠を獲得。当然本人が主演しているので、劇中も過激なラップを披露している。

原題の8 Mileというのは、自動車の町デトロイトにある8マイルロードという通りのこと。その北側を白人が、南側を黒人が占める境界にあたる。南側に生まれたラビットが、苦悩の青春時代を乗り越えてラッパーとして成功し、8マイルロードを渡っていった。波乱の時代が描かれている。因みに、ミュージック・ビデオでは迷彩服に白い髭を付け、ピン・ラティンに扮したエミネムが白旗を上げて踊り回ったといったもの。一見の価値有り。プライベートでもトラブルの絶えないエミネムは今後も注目だ。尚、ラップを披露する場面では、本来は放送出来ないスラングが多々出てくるので参考にして欲しい。

(小張寅蔵)

ろんどん つうしん
London Report

(一面から続く)

な要素を含んでいるので、人によっては気温が一番重要だったり、湿度が気になったりするのである。こんなアンケートがある。「私たちの社会の中で天気と言う概念は生活(文化)に基づいていると思いますか? それとも自然に基づいていると思いますか?」47%の人が生活に、53%の人が自然にという回答だった。

先日、友達から「何だか面白そうなことやってるみたいだからテート・モダンに行かない?」と言う誘いの電話が有った。僕もすぐ昨晩のニュースを思い出し、「行こう、行こう」と即答。ニュースで紹介しているのは見たのだが、そこでどんな事を具体的にやっているのかは、よく解らなかつたので気になっていたのだ。その友達にも聞いてはみたが、やっぱりはつきりしない。分っているのは夕日に関する何かだと言う事。「取りあえず、行ってみれば解るだろう」と次の日に待ち合せてテート・モダンに行った。その建物のどちらの入り口を正面と呼ぶかは極めて微妙なのだが、取りあえず外観からの視点での正面入口から入ると、もういつものそれとは何かが違う。一歩、二歩と足を進める瞬間にはもう、明るさ、空気、色、と違いははつきりと分るのだが、意識よりも先に足が進む。その違いが何なのかを考えるよりも先に、それを見ようとする感覚。建物の中へ、速足で歩いていく。そのまま歩いて、吹き抜けになった長方形の大きな展示スペースの調度二階の渡り廊下の様なフロアへと出たところで、僕の左側には大きな夕日が浮かんでいた。「ブーン」と言う微かな音を感じながら僕は一瞬、何も考えずにたたずんでしまった。その後ですぐ、自然と顔が嬉しさからほころんでくるのが分った。何だかその、大まじめで、遊び心が沢山、バカでかい作品が嬉しかったのである。下のフロアには多くの人が地べたに寝ころんでいる。僕の周りには、柵にひじを突いたりしながら皆それぞれの表情を浮かべて、その夕日を見ていた。

実はこの夕日、下半分だけしか存在しなく、上半分は鏡になっていて、そのまま展示スペース全ての天井が鏡になっていると言う訳なのだ。下のフロアに寝ころんで、鏡に移った自分たちの姿を夕日の中で眺めるのもなかなか面白い。先程のアンケートもオラファー・エリアソンと言う人のこの「ザ・ウェザー・プロジェクト」の 프로모ーション・キャンペーンの一環として行われたもの。よく有る写真やシンプルな言葉での雑誌やインターネットで見られるような広告はあまり使いたくなかつたらしい。やっぱりどんなアートにも少なからず理由が有るように、この作品にも主題があり、それはそれで知っていれば面白いのだが、それよりも先にまず理屈抜きで、あれだけ

大勢の人の心を捉えるその力、存在感が僕の一番気に入ったところなのだろう。「何で、室内にこんな大きな夕日があるんだ?」そんなもので十分なのである。ただ美しいだけとか、凄いだとか、何か見る者を捉える大きな力があれば、それでいいような気がする。後は勝手に個人で楽しめばいいのだ。理屈が一番最後で十分なのだと思つた。そう考えると尚更面白い。アートと天気。そのとらえ方は実に様々だ。台風だつてある人にとってみれば、わくわくとするイベント事になりうるのだ。気が重くなるようなロンドンの冬。こんな夕日が見られるのならば、やっぱりそんなに捨てたものでもないんじゃないだろうか。

(神山朝人)



危険な had better

はい、きょうはですね、たいへんおトクなお豆の油の関係の取引について御案内しようとお電話差し上げたんですが・・・、あの、じつはですね、いま、わたくしお宅のお近くを回っているので、お話だけでも聞いていただけませんかでしょうか・・・

営業：

Now, you had better invest in soy bean oil futures, madam.

「この際、大豆油の先物に投資したほうがいいですよ、奥さん」

マダム：

Are you giving an order to me, bean head?

「あんた私に命令しようってのかね？^{大豆頭}脳たりんがっ」

なんでマダムは怒ってるのかな。「命令」だなんて、ただお勧めしただけなのに・・・。

マズかったのは had better だ。中学では、should は「すべき」、had better は「したほうがいい」と習った。だから should で言われたほうが、なんか押し付けがましいと感じるかもしれないが、本当はまったく逆。had better は should よりも強く迫る表現なのである。

had better : 命令

should : 勧告

以下、もう少し詳しく。次の問題を見てほしい。

【問題】空欄に had better と should をそれぞれふさわしいほうに入れなさい。

尊大な超大国：

You (1) be with us.

「きみたちは、われわれの側についたほうがいいのでは」(縁切るよ。援助打ち切るよ。攻めるよ。)

謙虚な弱小国：

You (2) listen to us.

「あなたも、私たちの言うこと聞いたほうがいいと思うんですけども」(おねがいしますよ。)

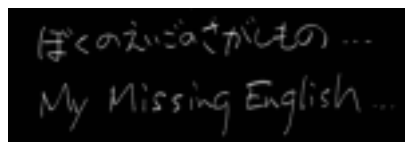
強気のテロリスト：

You (3) leave here.

「おまえら、ここを出てったほうがいいんじゃないのか」(ドカードカーン。)

答：1 = had better 2 = should 3 = had better

いずれも「～ほうがいい」だから had better でいいじゃない



学校英語にわすれものありませんか？

か、とあなたは思ったかもしれない。しかし、まず知っておいてほしいのは、should も had better も訳語に区別はないこと。どちらも「すべき」であり、「したほうがいい」なのだ。

でありながら、両者の意味には確固たる違いがある。had better は「そうしないとひどい目に遭うよ」という気持ちを含んでいて、場合によっては脅迫とも取れる言い回しなのだ。「しなさい」としてもいいくらいである。対する should はそこまで強くなく、比較的やさしい勧告。だから上の問題文では、「尊大」には命令の had better が、「謙虚」には勧告の should がふさわしいのである。

ほかにも例を挙げてみよう。

世界的な言い分：

Japanese banks had better clear up their bad loans.

「日本の銀行は不良債権を処理してしまったほうがいいでしょうな」(いい加減にしろよ)

日本の銀行：

We should clear up our bad loans.

「私たちは不良債権を処理してしまうべきですね」(努力はしてるんですけどねえ)

いじわるなヘビ：

You'd better go.

「逃げたほうがいいんじゃないのか」(いますぐ死にたい?)

にらまれたカエル：

You should think of your family, sir.

「だんなも自分の家族のこと考えてみてくださいよ」(こんなあたしにも、帰りを待ってしてくれてる家族があるんですよ)

このように命令である had better。ということは、軽い提案のつもりで使ってしまうと、思わぬ結果を招くことになる。

たとえば、次のレストランでの食事後の2人の会話を見てほしい。

おごってほしいあなたの社交辞令：

We had better split it.

「ワリカンにしたほうがいいよ」

おごるつもりでいた相手：

You don't want to be my guest?

「おごってほしくないの？」

相手が訝るのも無理はない。なぜならあなたは、本心とはあべこべにワリカンを迫っているのだから。このセリフには、(一方

(最終面へ続く)

(五面から続く)

的におごられたりするの、いやなの(あんたお金ないんだから見栄張るのやめなさいよ)などのニュアンスが読み取れてしまうのである。ただの社交辞令なら、should を使ったほうがいい。

さらに、目上の人に向かって had better を使うのも危険をはらむ。勇気を出しての進言なら見上げたものだが、さもなければ大変な結末を招くことだってある。

部下:

You had better brush up your English, boss.

「ボス、英語やり直したほうがいいですよ」(やりなさいって。かなりひどいですから)

上司:

Who do you think you're talking to?

「お前、誰に向かって口聞いていると思ってるんだ?」

いかにそれが当たるとはいっても、部下から命令口調でそんなことを言われて、腹を立てない上司はいない。ただし、このケースについては should に置き代えても、やっぱり言いにくいことではあるけれど。(望月)

Kanna
 中野区新井1-30-6 第1三番ビル1F
 Tel: 03-5343-1316
 営業時間
 平日・土曜日 11:30~15:00 / 17:30~25:00
 日曜日 17:30~25:00
 定休日 毎週火曜日 & 毎月第3日曜日

プレオープン期間を経て、10月15日グランドオープン!!

「自分の行きたいお店が欲しい」

呑むの好き。人と話すの好き。

酒好きの仲間とともに自分のりそうの飲み屋を作りました。

飲み食いだけでなく、自作の美術品等の展示や、

ミニライブ、ろうどく劇等にもお使いただけます。

どんどん話が逸れてしまったが、こんな話がしたいわけではなかった。禁煙してまずよってことを自慢したかったのである、私は。
 私とは何の面識もない小泉とかいう人を親玉にした胡散臭い連中が、煙草なら増税したって文句は出にくいぜ、などと相談して、またもや煙草が値上げされた。そもそも、身体に悪い身体に悪いと喧伝し、道端で吸っていただけで罰金を科せられるような、著しく中毒性が強く、百害あって一利あるかないかってなものを、国が率先して販売しているのはなぜなんだろう。ソリヤ、オishi 商売タカラヤマメラレネエツワケデ「サイマスヨ。そんなのである。国鉄が赤字塗れで収拾がつかなくなってきたとき、やはり、煙草を値上げすることによって何とか解決をはかったことを思い出す。電車になんか減多に乗らない私が山のように吸っては吐きだす煙の力で、国鉄を助けてあげる。こういう仕組みには釈然としないものがある。しかも、その後進であるJRは喫煙者に如何にも冷たく、恩義など微塵も感じていないようなのだ。本

(一面から続く)

来なら、お世話になりました、と豪華喫煙列車でも用意するのが筋ではないだろうか。

この七月の煙草税を上げる際にも、全く同じような不愉快な匂いがして、どうにもこうにももうんざりした私は、ついに、禁煙宣言を發したのであります。私とは何の面識もない小泉とかいう人が、喫煙家のみなさんにはいつも本当にお世話になっております。この度は私の都合で喫煙家のみなさんに御迷惑をおかけして申し訳ありません。という、お礼やお詫びの言葉とともに、深々と頭を下げるまでは、私は禁煙をすることを宣言する、と。

大方の予想を裏切って、今日までまた禁煙は続いている。よく禁煙できましたね、とたずねられることも屢々。何しろ、日に少なくとも二箱、レコーディングしているようなときには五箱も吸っていたであろう私である。そんなことを四半世紀も続けてきたわけで、驚かれるのも当然かもしれない。中毒性が強いのは確かで、明らかに禁断症

状もあつた。手足が痺れる、ぼーっとする、一日中眠い。しかしながら、そんな状態もいつの間にか終わってしまい、今に至るわけだ。

ここで、禁煙成功の秘訣をひとつ。

目の前に煙草を置く。それを目で見て、手に取って、時には匂いを嗅いでみたり。この煙草を私は自由に扱う権利がある。吸おうと思えばいつでも吸える。にもかかわらず、私には吸わないことを選ぶ意志の自由があるのだ、と。こんな強引な口ジツクを思い浮かべると、何だか意志の自由を尊重しなくちゃな、という気になって、吸わずにいられた私である。バツカジャナカ力。でも、本当の話なんだからしかたがない。

さてさて、私とは何の面識もない小泉とかいう人が愛煙家の皆々様に向かってお詫びやお礼をのべる日は来るのだろうか。もし、来ないなら、私の禁煙は永遠に続いてしまうことになるのだが……。

(全太)



Ken-ichi Shinozaki, architect

Voice: +81-3-3220-0644
 Facsimile: +81-3-3220-0640;
 e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp
 篠崎健一アトリエ

編集後記
 からす新聞第五巻第十号(通巻第五八号)、無事、発刊できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発刊予定日は二〇〇三年十一月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

ファミマ

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
 03-3379-1451

宝仙寺
 ファミマ
 おうめかいどう
 中野坂上駅